

令和5年3月2日

二宮町長 村田 邦子 様

二宮町総合計画審議会
会長 湯川 恵子

第6次二宮町総合計画前期基本計画素案について

令和4年11月8日付け二第1324号により諮問を受けました第6次二宮町総合計画前期基本計画素案について、当審議会では慎重に議論を重ねた結果、別紙のとおり答申いたします。

今後の前期基本計画の策定にあたっては、本答申の趣旨を十分に尊重し、計画に反映されますよう要望します。

答 申 書

1. はじめに

素案の審議にあたり、基本構想に定める 10 年後の将来像の実現に向け、町が前期 5 年間に重点的に実施すべき施策、及び各施策分野の方向性が、時代の変化や町民課題に即した計画となっているかなどについて、集中的に審議しました。

特に人口減少・少子高齢化の進展に伴う町財政、地域生活、経済に対する影響のほか、深刻化する地球規模の環境問題における自治体としての責任、教育分野における急速な ICT 技術の活用など、現在及び未来を見越した分野を跨いだ課題に対して、専門的知見だけでなく、町民としての目線も含め計画素案を審議しました。

町においては、本答申を十分に尊重し、各種計画策定を進めるとともに、「誰一人取り残さない」という SDG s の理念を基盤として、町民の想いや希望が詰まった 10 年後の将来像「豊かな自然と心を育み、人から人へつなぐ笑顔の未来」の実現に向け、計画に定める施策を確実に推進されるよう要望します。

2. 総論

審議における委員意見のうち、特に計画全般にかかわる重要なものを総論として 3 点特筆します。

一つ目として、二宮らしさを生かした施策横断型の取り組みを推進する必要があります。具体的には、自然が豊かでゆったりとした雰囲気「二宮らしさ」を生かし、みんなが幸せを感じながら気候変動対策に取り組む「二宮モデル」を打ち出すことで、移住定住施策にも関連した町のイメージアップにつなげたり、コンパクトで顔が見える町の規模を生かし、例えば特産品であるオリーブについて、農業、商工業、観光、環境の各分野を横断的に結び付け、相乗効果も視野に入れた施策を展開したりするなど、二宮らしさに関係した横断的な連携により効率的で効果的な取り組みとなることを目指す必要があります。

二つ目として、個性や価値観の多様性を認め合うインクルージョンの精神を持ってまちづくりを推進する必要があります。そのため、インクルージョンという概念が浸透しつつある福祉分野や教育分野だけでなく、社会全体での子育てを推進する子育て分野や高齢化等による地域防災力の低下が課題となっている防災分野においても、従来型の取り組みにとどまらない新たな関係性の構築を目指すなど、社会や地域を挙げてインクルージョンの精神に則った新たな取り組みを模索する必要があります。

三つ目として、環境面だけでなく、財政や地域活動など様々な分野において持続可能な視点を持ち続ける必要があります。その際、行政サービスのワンストップだけではなくノンストップを意識することや、単なるデジタル化ではなく体制の抜本的な改革を目指した本質的なデジタルトランスフォーメーションなど、保守的ではなく未来志向型の一歩踏み込んだ計画となるよう努力する必要があります。

3. 重点的方針

①公共施設の利便性、機能性を高めるまちづくり

- ・高齢者など、デジタルに弱い方もインクルージョンする意識として「どの世代においても理解しやすいデジタル化」を推進する必要がある。

②子どもの笑顔がかがやく、子育てと教育のまちづくり

- ・意見なし

③気候変動に対応した安全・安心なまちづくり

- ・重点的方針タイトルの安全・安心という言葉は、意味合いが広すぎるため、地球温暖化対策などでも使われる「持続可能な」という言葉の方が適切である。
- ・ゲリラ豪雨などで頻発する河川災害、土砂災害などへの対応も明記するべきである。
- ・脱炭素社会を実現するためには、役場の事務事業だけでなく、産業・民生・運輸を含めた町域全体からの排出量を計画的にゼロにすることを、町として目指すため、町域全体の脱炭素実行計画の策定にも取り組む必要がある。
- ・脱炭素社会や循環型社会を目指すことと関連して、二宮町のゆったりとした雰囲気にも適合した、大量生産・大量消費・大量廃棄から脱却したライフスタイルを推進するべきである。

④誰もが自分らしく暮らせるまちづくり

- ・施策として地域の防災や防犯にも触れているため、重点的方針タイトルに「安全・安心」を追記し、タイトルと内容の適合を図るべきである。

⑤活力がみなぎり、選ばれるまちづくり

- ・「みなぎる」は満ちるという意味であり、農業・産業の活力という言葉においては、よく使われる「あふれる」とした方が良い。

⑥新しい時代に向けて、しなやかに対応するまちづくり

- ・DXという単語は、単純な「情報化」とは異なるものであることを認識して、適切に使う必要がある。

4. 分野別方針

施策分野①：子育て

- ・子育て世代の町政への参画を促すため、事業の際のキッズルーム設置やボランティア人材バンクの設立など、効果が小さくてもすぐに取り組みせて変化が見える施

策が必要である。

- ・保育園や学童保育所の送迎時の駐車場問題など、子育て環境に関わる課題に対してはしっかりと状況を把握し、積極的に解決していく方針を示す必要がある。また、地域や社会で子どもを育てていく意識を醸成するためにも、施設の近隣住民をはじめとする子育て世代以外の町民との関係性を、より良好なものとするための仕組みづくりを、重点的かつ継続的に行う必要がある。

施策分野②:教育

- ・児童生徒の良好な教育環境の確保や人権意識を高めるため、いじめやセクハラを防止する二宮町独自の条例などを制定する方針についても検討するべきである。
- ・すべての柱となる「二宮町としてどのような子どもを育てるか」を明記するなど、具体的にイメージできる工夫をする必要がある。
- ・教育現場におけるデジタル化は、単に教科書のデジタル化ではなく、データの集積や外国を含めた他地域との交流など、幅広くそして含みのある活用を進めていく必要がある。
- ・タブレット端末などの継続的な維持に係る国の支援が打ち出されていない中、継続して教育現場のデジタル化を維持していくため、町がしっかりと支えていく姿勢を打ち出す必要がある。
- ・現在の学校教育では、多様性を認め合うインクルージョンの推進が重要であるため、計画においても受容性の高い教育の推進を明記するべきである。また、子どもだけでなく教員や保護者をはじめとする大人の意識の変化や、インクルージョン教育を実施できる組織、体制の構築も進めていく必要がある。

施策分野③:福祉

- ・社会的課題となっている「ひきこもり」に早期かつ継続的に対応するため、役場内の教育委員会や福祉部局だけでなく、学校、福祉事務所、児童相談所など、様々な関係機関と連携して対応していく方針が必要である。
- ・施策細節「地域福祉の充実」では、誰でも安心して暮らし続けられる点について、深い関わりがある包括支援センターの事業内容を記載する必要がある。
- ・現況と方向性の説明と、介護保険サービスの関係性が分かりづらい。また、施策細節「介護保険サービスの充実」で説明している取り組みが、持続可能な介護保険事業の運営にどのように寄与するのかが分からないため、文章を再考する必要がある。

施策分野④:健康・保健

特になし

施策分野⑤:環境

- ・国の支援制度を活用し、遊休農地を活用した営農型太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギー開発や新築時の省エネ住宅の推奨、電気自動車の普及促進など、脱炭素社会の実現に向けたより踏み込んだ施策を展開する必要がある。
- ・施策細節「自然環境と生物多様性の保全」において、生物多様性の保全に関する記述が読み取りづらいため、表現などを工夫する必要がある。
- ・新庁舎整備に際しては、使用エネルギーの減量と自給により正味の消費量をゼロにする ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化を目指すことを明記するべきである。
- ・気候変動適応策について、重点的方針と同様に分野別方針にも記述を追加する必要がある。

施策分野⑥：防災

- ・高齢化や単身世帯の増加などにより、自治会加入者が減少している中、共助を担う地域防災力の低下が課題となっているため、地域コミュニティのあり方を含めた町の姿勢を見せていく必要がある。
- ・現況と方向性の内容からみて、既存の3つの施策細節だけでは、土砂災害などへの対応といったハード面の施策が欠落しているように見える。
- ・すでに既存の自治会を基盤としたネットワーク以外に、オンラインを活用した子育てやサークル仲間といった新たなネットワークも存在しているため、それらを含めた情報の発信や連携についても検討する必要がある。
- ・高齢化等を踏まえ、自助・共助自体が困難な状況も考えられるため、既存の枠組みにとらわれない連携や町の取り組みも必要である。
- ・日中の人口比率が低い二宮町において、昼間の発災時の重要な防災要員として、地域の中学生の役割を見直すべきである。特に子ども会の解散などが見受けられる中、地域の大人とのつながりを保ち、地域への愛着を芽生えさせるためにも有用な取り組みだと考えるため、災害対応における中学生の積極的な関わりを位置付けるべきである。

施策分野⑦：消防救急

- ・日中の人口比率が低い二宮町において、昼間の発災時の重要な防災要員として、地域の中学生の役割を見直すべきである。特に子ども会の解散などが見受けられる中、地域の大人とのつながりを保ち、地域への愛着を芽生えさせるためにも有用な取り組みだと考えるため、災害対応における中学生の積極的な関わりを位置付けるべきである。

施策分野⑧：農林漁業

- ・一文が長すぎて文章全体の意味が分かりづらくなることや、「周辺環境」のように具体的なイメージが持ちづらくなる箇所も見受けられるため、一般町民目線で

文章構成を考えるべきである。

- ・農業の推進にあたっては、農林水産省の「みどりの食料システム戦略」なども参照し、農地土壌への炭素貯蔵を含めた環境再生型農業についても意識する必要がある。
- ・特産品による産業振興にあっては、他市町の事例を参考に、行政が民間の力を取りまとめて取り組みを進めることにも力を入れる必要がある。
- ・二宮らしい地域振興の一つとして、農業、産業、観光、環境の各施策分野を横断的に関連させた事業展開は魅力的であり、二宮らしさをアピールする各種取り組みにおいても積極的かつ横断的な連携に基づいた事業展開を進めるべきである。

施策分野⑨:商工業

- ・「身近な購買機会を確保」など、一般町民にはイメージしにくい表現を改めるべきである。

施策分野⑩:観光

- ・転入者などによる新規出店や、東大果樹園跡地の町民有志による活用により新たな人の流れができていることも、観光資源のひとつとして記載するべきではないか。

施策分野⑪:都市基盤

特になし

施策分野⑫:土地利用

- ・未利用町有地の有効活用については、施策分野⑰「行財政改革」の施策細節「公共施設と未利用町有地の適正な維持管理・再編」に記載されているが、施策分野⑫「土地利用」にも記載した方が良い。

施策分野⑬:公園・緑地

- ・町民ニーズというと、人口構成割合として高齢者をイメージしがちなため、子どもや親の視点も含めた整備を進めることも明記するべきである。

施策分野⑭:歴史・文化

特になし

施策分野⑮:生涯学習・スポーツ

特になし

施策分野⑯:自治

特になし

施策分野⑰:行財政改革

特になし

施策分野⑱:地域づくり

- ・高齢化や単身世帯の増加などにより、自治会加入者が減少している中、共助を担う地域力の低下が課題となっているため、地域コミュニティのあり方を含めた町の姿勢を見せていく必要がある。
- ・すでに既存の自治会を基盤としたネットワーク以外に、オンラインを活用した子育てやサークル仲間といった新たなネットワークも存在しているため、それらを含めた情報の発信や連携についても検討する必要がある。
- ・高齢化等を踏まえ、自助・共助自体が困難な状況も考えられるため、既存の枠組みにとらわれない連携や町の取り組みも必要である。
- ・子ども会の解散などが見受けられる中、地域の大人とのつながりを保ち、地域への愛着を芽生えさせるためにも、昼間の発災時の重要な防災要員として、地域の中学生の役割を見直し、災害対応における中学生の積極的な関わりを位置付けるべきである。

施策分野⑲:安全安心

- ・普段、登下校等の見守りを担っている地域の大人の活動を評価するとともに、児童生徒と顔の見える関係性づくりの有用性についても記載する必要がある。
- ・施策分野のタイトルである「安全安心」は、非常に広い意味を持っているため、現況と方向性の中で分野の内容が分かりやすく説明できるよう工夫するべきである。

5. その他

- ・全体として文章の主述関係のねじれや、いわゆる「役所言葉」が散見され、一般町民にはわかりづらくなっているため、町民目線での文章の再構成が必要である。
- ・重点的方針の内容が、分野別方針のどこに関連しているのかがわかりづらいため、重点的方針と施策分野を結び付ける工夫が必要である。
- ・様々な分野において「ネットワーク」「パートナーシップ」「連携」などがキーワードになってくるが、取り組みの主体者が混在し、誰が何をするかが不明瞭になっているため、特に町の方向性や町が実施することを明確にする必要がある。
- ・中長期的な計画のため、計画途中での見直しや柔軟性について記載する必要がある。

- ・長寿の町を謳う二宮町において、町民ニーズという言葉は高齢者をイメージしがちだが、人口構成割合は少なくとも子どもや親の視点も含めた事業を実施するとともに、計画策定においてもそのことを意識した記載とする必要がある。
- ・具体がイメージしづらい「二宮らしい教育」や「学びや育ちの環境を整える」といった言葉には、具体例も入れて読む人がイメージしやすい工夫をする必要がある。
- ・重点的方針、分野別方針ともにSDGsと結びつけた取り組みを示したり、SDGsを座標軸に据えて検証したりする必要がある。